

キム・マギン・サッター

キム・マギン・サッターはミズーリ大学を卒業後、ドイツのハイデルベルグ市にあるドイツがん研究所免疫学研究科を経て1993年にモンサント・カンパニーに入社しました。以来マギン氏は、世界中の穀物、飼料、食品産業と協力して、初期の遺伝子組み換え作物のために、遺伝子組み換え作物の種子に関する開発初期段階のほ場試験評価、許認可申請、開発戦略や政策の展開などに貢献してきました

またインダストリー・アフェアー部のディレクターとして、世界的なバイオテクノロジーの理解促進や、農業食品業界関係者への情報提供活動を担当しています。

近年は米国食肉輸出連合会 (US Meat Export Federation) の執行委員、アメリカ飼料産業協会 (American Feed Industry Association) 執行委員、大豆食品協議会 (Soyfoods Council) 副会長、米国カノーラ協会(US Canola Association)理事に就任しています。また、農業科学技術センター(Center for Agricultural Science and Technology)やアメリカ穀物化学者協会(American Association of Cereal Chemists)、食品技術研究所(Institute of Food technologists)、国立油糧種子研究所(National Institute of Oilseed Products)、アメリカ大豆協会(American Soybean Association)バイオテク作業部会などの団体のメンバーです。。

現在、夫ジムとセントルイスに在住。